

主 題 名

心のバリアフリー

教 材 名

コミュニケーションしてみよう〈2時間扱い〉

人権学習の視点

個別的な視点「障害のある人の人権問題」



主題・教材について

子どもたちは、毎日の生活の中でいろいろな情報を耳から得ている。自分はどのようにして言語を獲得したのか、意識することなく成長してきた子どもたちがほとんどである。そんな子どもたちに音声を付けずに言葉を聞き、言葉を知り覚えることができるかという体験を通して、聴覚に障害がある人は耳からの情報を得にくいいため、視覚を活用して情報を得ていることを新聞の番組欄の記号から知らせる。

身振りや文字などを使ったコミュニケーション体験活動を通し、「伝えよう・伝えたい」と思う心情があれば通じることに気づき、耳が聞こえにくい人とコミュニケーションしようという心情を育みたい。

また、京都府立聾学校の紹介を通して、自分たちの学校生活との共通点や相違点を理解し、互いに思いやりの気持ちをもって生きていこうとする心情を養いたい。

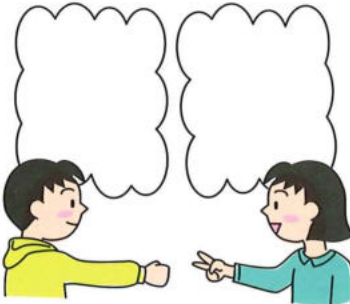
*平成18年3月発行「人権学習資料集」〈小学校編Ⅰ〉も参考資料として活用できる。

ね ら い

耳が聞こえにくいとはどういうことか疑似体験し、情報の得方やコミュニケーション方法を考え試行することを通して、お互いに理解し合い、かかわろうとする気持ちをもつことが大切であることに気づき、実践しようとする心情を養う。

本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導 入	○本時の課題を知らせる。 ○聞こえるとは、どういうことか気付かせる。	一斉	○本時の学習課題を知る。	○「聞こえる」とはということなのか気付くように、全員が静かになるのを待って、本時の課題を知らせる。	
展 開	聞こえるってどんなこと?				
	○聞こえないことを疑似体験させる。	個別 一斉	○音声を伴わない言葉を聞き取る。 ○言葉が聞き取れないと、どんな気持ちになるか発表する。	○音声を付けずに、3音節以上の言葉や文を話し、児童に読み取らせ発表させる。(できれば、児童が普段あまり使わない言葉の方が良い。)	資料 「コミュニケーションしてみよう」 正解を書いたカード
	○聴覚障害について知らせる。		○音声が伴わない言葉を聞き取れなかったら、言葉を覚えることができるか考える。 ○聴覚障害について知っていることを発表する。	○自分たちは生後、耳から多くの情報を得て、言葉を獲得したことを伝える。 ○聴覚障害がある人は、補聴器をはめている。しかし、補聴器をはめても鮮明には聞こえない人がいることを伝える。	補聴器の絵 (小学校編Ⅰ) P.26参照
	聞こえにくい人はどのように情報を得ているのだろう				
	○聴覚障害者の情報収集について考えさせる。	個別 一斉	○聴覚障害の人は、どのようにして情報を得ているか、知っていることや疑問点などを発表する。	○児童が学習や生活の中で知っていることを発表後、新聞のテレビ番組欄を提示する。	P.37 新聞テレビ番組欄 腕時計

			<p>○テレビ以外の情報の得方の例として、パイプレーター付の腕時計を紹介する。</p> <p>○その他、情報収集に関する児童の疑問についてはまとめておき、聾学校紹介のDVD視聴の時に取り上げる。</p>		
展	耳が聞こえにくい友達の学校のことを知ろう				
	○聴覚障害者のコミュニケーション方法を知らせる。	ペア	○手話以外のコミュニケーション方法を考え、言葉を伝える体験をする。	○聾学校とはどんな学校なのか興味をもって視聴できるように、体験活動をはじめに入れる。	単語を書いたカード
	○コミュニケーション体験をした感想を発表させる。	一斉	○コミュニケーション体験をした感想を発表する。	○コミュニケーション体験の仕方を説明する。(伝える言葉を、伝える側の児童にのみ知らせ、受け取る側の児童に伝える。)	<小学校編I> P.28~29 参照
	○聾学校の施設・設備や学習の様子を知らせる。		○聾学校の施設・設備や学習の様子を知る。		DVD
開	同じ社会の一員として、心のバリアフリーを				
	○同じ社会の一員として、自分ができていることを考えさせる。	ペア	○指文字を使って、自分の名前の表し方を知り、自己紹介しあう。		
		一斉	○聴覚障害がある人に出会った時、どのようにかわるか交流する。		○他教科・領域と関連させ、誰もが大切にされる社会の一員であることに気付くように、発表した意見を取り上げる。
まとめ	○聞こえにくいとはどういう障害であるか知り、かわろうとする気持ちを持つことが大切であることに気付かせる。	個別 一斉	○聴覚障害について学習した感想を書き、発表する。	○体験を通じ、これから共に生きていく自分のこととして捉えている感想を取り上げる。	感想用紙

評価

聞こえにくいとはどういうことか疑似体験し、情報収集やコミュニケーションしづらい障害であることを知ることができたか。

コミュニケーション方法を考え試行し、自分のできる方法でかわろうとすることが大切であることに気付き、実践しようとする心情を養うことができたか。

* DVDには、聾学校の施設・設備やコミュニケーション方法・言語学習などの授業風景を収録してある。

* コミュニケーション方法などについて疑似体験した後に視聴すると、聴覚障害について理解がしやすい。